

平成26年度決算に係る

定期監査調書

平成27年6月

農業試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況	1 頁
3	組織及び業務調べ	1 頁
4	職員の定員、現員調べ	1 頁
5	役付職員の調べ	1 頁
6	主な事業に関する調べ	2 頁
7	収入証紙取扱額調べ	5 頁
8	収入事務処理状況調べ	5 頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 諸収入	
	(6) 現金の取扱状況	
9	収入未済額調べ	7 頁
10	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	7 頁
11	不納欠損額調べ	7 頁
12	負担金、交付金及び委託料支出状況調べ	8 頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
13	工事請負費調べ	9 頁
14	財産に関する調べ	10 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
15	財産の貸付及び使用許可調べ	14 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
16	借受不動産明細調べ	15 頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	16 頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
18	自動車(二輪を除く)の管理状況調べ	16 頁
19	寄附物件の受納状況調べ	17 頁
20	備品の処分状況調べ	17 頁
21	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	17 頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
22	事業別予算執行状況調べ	18 頁
23	農業機械の管理状況	20 頁
24	生産物(品)に関する調べ	21 頁
25	試験研究調査事業別実施状況調べ	22 頁
○	意見・要望等	35 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1)指摘事項 該当なし

(2)監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況

該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
農業試験場	作物研究室	(1)主要農作物の育種及び栽培に関すること (2)主要農作物の原種及び原原種に関すること (3)農業経営技術の改善に関すること (4)水田機能の維持・保全に関すること (5)農業機械化に関すること (6)水田転作野菜に関すること
	環境研究室	(7)土壌肥料及び土壌保全に関すること (8)主要農作物の病害虫に関すること (9)土壌、肥料等の分析に関すること
	有機・特別栽培研究室	(10)有機・特別栽培の生産技術に関すること

4 職員の定員、現員調べ

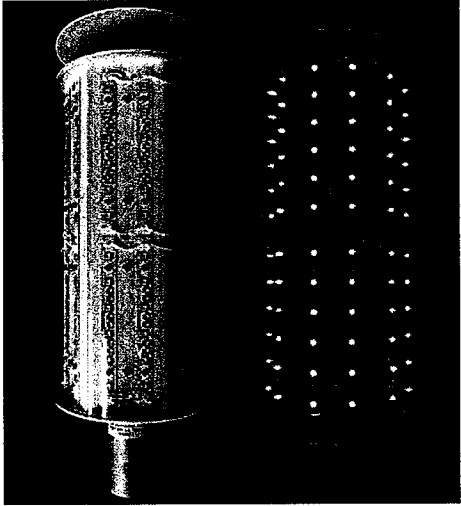
種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	27.4.1 現在	26.4.1 現在	27.4.1 現在	26.4.1 現在	27.4.1 現在	26.4.1 現在	27.4.1 現在	26.4.1 現在	
定員	1	1	18	18	5	5	24	24	
現員	() 1 (1)	() 1 (1)	() 18 (6)	() 18 (6)	() 5 ()	() 5 ()	() 24 (7)	() 24 (7)	病害虫防除所兼務
過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	0	0	16	16	17	17	農業技術員16名 事務員1名

5 役付職員の調べ

(平成27年6月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	宮田 邦夫	1	2	(病害虫防除所)
作物研究室長	橋本 俊司	1	2	
環境研究室長	長谷川 優	0	2	(病害虫防除所)
有機・特別栽培研究室長	前田 英博	1	2	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>「ゆうきの玉手箱 (忒の重)」技術 確立☆チャレンジ 編</p> <p>決算額 2,347千円 (財源内訳) 一般財源 2,347千円</p> <p>○将来ビジョン I ひらく (4) 食のみやこ 鳥取県</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況 (ア) 目的 他産業とも連携しつつ、主に水稻・大豆の有機栽培を対象として安定生産及び栽培面積拡大につながる取り組みやすい技術メニューを確立・拡充し、「鳥取県有機・特別栽培推進計画」の着実な推進に寄与する。 加えて、有機栽培に適応する品種および品目を見出し、「食のみやこ鳥取県」を推進する旗頭となるよう、特色ある有機農産物の生産拡大に資する。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農業試験場で育種をした鳥系系統を中心に有機栽培適性の高い水稻品種の探索に着手。そのほか、水稻有機栽培における育苗・移植技術の確立、有機的除草法の省力化への改善、問題病害虫の抑制技術の検討を実施 2 地元企業と連携し、大豆害虫対策として安価な光防除用の緑色LED灯器材を試作、場内にてハスモンヨトウ等ヤガ類防除効果確認試験を実施。そのほか、地大豆を中心とした高付加価値大豆品種の有機栽培法を検討 3 輪作を取り入れた雑草抑制、病害回避、肥料に頼らない作物生産のための地力回復、等の効果を引き続き検討(水稻-大豆の輪作体系下) 4 有機栽培に適した新たな転作品目の検索 <p>イ 平成26年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 事業2年目であり、昨年度の結果を踏まえながら事業の円滑な遂行をめざし、現地試験担当農家、関係する県内LED企業等との連携の確立に努めた。</p> <p>ウ 成果 主な成果は以下の通り。 (ア) 本県オリジナルの有機栽培に好適な水稻品種を探索する試験では、有機栽培条件下で鳥系88号、90号、94号を供試検討したが、現地での収量・食味の評価が低く、実用性は低いと判断された。 (イ) 県内LED企業のノウハウを活用し、さらに低コスト化を実現した光防除用緑色LED灯に改良できた。また、独立電源型の試作も達成できた。また、距離を変えて照度を測定したところ、およそ目的とする距離まで光が到達していることが判明した。</p> <p>(ウ) 他の試験項目に関しても、当初の計画通りほぼ進捗することができた。</p> <p>エ 課題 (ア) 単年度のデータのみでは、特性把握や技術の普遍化が十分でないので、年次変動や現地ほ場での適応性等を含めて引き続きデータ蓄積を行う必要がある。 (イ) 光防除用の緑色LED灯器材の試作では、県内企業のノウハウでも独立電源で駆動する装置(バッテリー式等)の可能性が見込めることが判明し、さらに低コスト・高性能化への改良を引き続き進めるとともに、適応品目(適応虫種)の拡大を目指す。 (ウ) 有機栽培に適した転作品目の検索を進め、さらにメニュー拡充を図る。</p>	 <p>【写真】緑色LED灯、右が点灯時</p>

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要	要
<p> 水稻・麦・大豆の 病虫害防除技術の 確立 決算額 1667千円 (財源内訳) 一般財源 1327千円 受託 340千円 政策項目 </p>	<p> ア 目的及び事業の実施状況 (ア) 目的 鳥取県の水稲・麦・大豆栽培において被害につながる病虫害を対象に、本県に最も適した効率的防除法および省力防除法を確立し、安定生産および高品質化、防除の省力・低コスト化、人と環境にやさしい農業の推進を図る。 (イ) 事業の実施状況 (1) イネいもち病薬剤耐性菌の防除対策の確立 鳥取県で最も普及率が高いストロビルリン系薬剤について、県内における耐性菌の発生状況を調査した。また、耐性菌に対する他系統剤の実用的な効果を確認した。 (2) 的確な防除対策のための新たな発生予察法の確立 フェロモントラップによる斑点米カメムシ類の簡易調査法の有効性を確認し、誘殺数と斑点米被害との関係を解析した。 (3) 発生増加が懸念される病虫害の防除対策の確立 大豆害虫マメシクイガに対する本県に適した防除対策を検討するため、フェロモントラップによる発生消長調査を行った。 </p> <p> イ 平成26年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 事業最終年度であるため、検討課題に優先順位を付け、年度内に確実に成果が出せる課題と、早急な対応が必要な課題に集中して取り組んだ。一方で防除法を確立した課題および一定の知見が得られた課題は試験終了とした。 </p> <p> ウ 成果 (1) イネいもち病薬剤耐性菌の発生状況と耐性菌に対する薬剤の防除効果 東部の一部、中部全域、西部の平坦部、採種ほ場において耐性菌が確認され、ストロビルリン系薬剤の使用を当面控えることを決定した。これらについて関係機関に情報提供を行い、平成27年度JA防除歴に本成果が活用された。 (2) 斑点米カメムシ類のフェロモントラップを利用した防除要否の判断 トラップ捕獲数と斑点米被害との関係の解析結果から、捕獲数を用いた被害予測法および防除要否の判断法を確立した。 (3) その他 4年間の研究期間中、上記2課題を含めて6課題の成果情報を提案しJA防除暦、大規模農家、関係機関等に利用されている。 </p> <p> エ 課題 試験期間の途中で新たに発生した課題や現場要望について、当初計画を変更して検討を開始したが、解決に至っていない課題（‘きぬむすめ’ および飼料用米の病虫害対策、イネ苗いもち防除対策、マメシクイガ防除対策など）があり。これらについては、新規課題において、引き続き検討を行う。 </p>	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>気候温暖化に対応した 水稲・大豆 基幹品種の 品質向上試験</p> <p>決算額 992千円 (財源内訳) 一般財源 992千円</p> <p>政策項目</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 気候温暖化に伴い水稲「コシヒカリ」で高温登熟により玄米品質が低下している。そこでより気温が低い期間に登熟させ品質向上をはかる。 また、大豆「サチユタカ」において畝立播種によって生育初期の湿害を回避し、生育量を確保し、収量及び品質安定化技術の確立を図る。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>(1) 晩植「コシヒカリ」の高温登熟回避による玄米品質向上 田植を6月下旬に遅らせることによって、高温登熟遭遇確立は低下し、平成26年産では1等米を生産することができた。ただし、玄米収量は10a当たり約100kg低下することが認められ、経営上不利であると示唆された。</p> <p>(2) 大豆「サチユタカ」の生産安定 畝立てしながら播種を行う「耕耘同時うね立て播種栽培」が初期湿害の回避に有効である。このとき播種密度を条間30cmの密播とすることで培土を省略でき、6月下旬から7月上旬の播種期とすることで倒伏が軽減され慣行培土栽培体系と同等以上の経済性を示した。</p> <p>イ 平成26年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験の実施に当たって、近年の温暖化に伴う作柄不安定を課題としている現地でも試験することとし、関係機関への連絡、情報収集等を行った。 ・栽培技術の改善だけでなく農業経営として収益性に意識し、費用対効果を考慮した技術の組立てを行った。 <p>ウ 成果</p> <p>(1) 晩植「コシヒカリ」の高温登熟回避による玄米品質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通期の田植から遅らせる場合、遅らせる日数に応じて、出穂期、収穫期等がどの程度移動するか、また、どの程度減収するかを、この試験において得られた結果をもとに予測した。また、高温登熟を回避するための田植期を推計した。 <p>(2) 大豆「サチユタカ」の生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豆「サチユタカ」のうね立て播種大豆「サチユタカ」のうね立て播種無培土栽培体系において、収量性及び品質を確保するには、条間30cmで1㎡当たり約20個体とする播種密度が適している。これにより、従来の慣行培土栽培と比較して10a当たりの粗収益が7千円程度増加する。 ・大豆「サチユタカ」のうね立て播種無培土栽培体系では、密播によって生育量を確保しながら倒伏の危険性を軽減するために、6月上旬以前の早播は避けて、6月下旬から7月上旬までに播種することで収量及び品質が安定しやすくなる。 <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晩植「コシヒカリ」：高温登熟を回避でき玄米外観品質が向上するが、晩植するほど減収を伴う。資材費等が若干低減し、生産費が抑制されるものの、減収による収入減をカバーできないため、経営上有利とならない。 	

7 収入証紙取扱額調べ 該当なし

8 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(単位:円)

収入科目	目	件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
行政財産使用料	行政財産使用料	4	67,100	67,100	0	0	鳥取県行政財産使用料	
		12	505,000	505,000	0	0	"	4月 ~3月分
	計(節)	16	572,100	572,100	0	0		
目計		16	572,100	572,100	0	0		
合計		16	572,100	572,100	0	0		

(3) 手数料

該当なし

(4) 財産収入

(単位:円)

収入科目	目	件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
生産物売払収入	生産物売払収入	69	6,902,990	6,902,990	0	0	生産品事務取扱要領 (物品規則)	
		計(節)	69	6,902,990	6,902,990	0	0	
	目計		69	6,902,990	6,902,990	0	0	
合計		69	6,902,990	6,902,990	0	0		

(5) 諸収入

(単位:円)

収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考	
目	節								
農薬等検定受託事業収入	農薬等検定受託事業収入	2	3,569,720	3,569,720	0	0			
		計(節)	3,569,720	3,569,720	0	0			
	目計		3,569,720	3,569,720	0	0			
農業・食品産業技術総合研究機構受託事業収入	農業・食品産業技術総合研究機構受託事業収入	1	340,000	340,000	0	0			
		計(節)	340,000	340,000	0	0			
	目計		340,000	340,000	0	0			
全国農業協同組合連合会受託事業収入	全国農業協同組合連合会受託事業収入	1	324,000	324,000	0	0			
		計(節)	324,000	324,000	0	0			
	目計		324,000	324,000	0	0			
雑入	預金利息	2	50	50	0	0			
	自販機電気代	4	30,626	30,626	0	0			
	自販機販売取扱手数料	4	42,622	42,622	0	0			
	原稿料	5	105,900	105,900	0	0			
	雇用保険料(本人負担)	210	147,846	147,846	0	0			
		目計		327,044	327,044	0	0		
		合計		4,560,764	4,560,764	0	0		

(6) 現金の取扱状況
ア 現金取扱状況

(平成27年 5月31日)

(単位:円)

収入科目(節)	収入済額	備考
生産物売払収入	177,550	場内販売
合計	177,550 (152件)	

イ つり銭の状況

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)

9 収入未済額調べ 該当なし

10 未回収回収促進のための取り組み状況調べ 該当なし

11 不納欠損額調べ 該当なし

12 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ
 (1) 負担金

(平成27年 5月31日現在)
 (単位:円)

予算科目 (目)	予算令達額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月 日	支出金額	支出の根拠法 令 名等(規約、要 綱 等を含む)	備考
(農業試験場費)	180,000	新規該当なし						
新規以外のもの						174,067		
目 計						174,067		
(農作物対策費)	10,000	新規該当なし						
新規以外のもの						10,000		令達元:生産振興 課
目 計						10,000		
合 計						184,067		

(2) 補助金

- ①国補分 該当なし
- ②単県分 該当なし

(3) 交付金

該当なし

(4)委託料

予算科目 (目)	国補単原の別	委託料の名称	委託契約の相手方	当初契約			人等年月日 (契約保証金 納付等年月 日)	完了年月日 履行検査 年月日	支出の状況			備考
				予定価格	契約年月日 契約額 変更契約(最終)	契約期間			支出区分	支出年月日	金額	
農業試験場費	単原	原種貯蔵施設保守点検業務	(有)オールエンジニア・サービス	747,000	(H24.4.1) 746,550 (H26.4.1) 7,110	H24.4.1 ~ H27.3.31	H24.3.16 (免除)	H26.5.1 外 H26.5.1 外	精算	H26.5.16 外	255,960	H24~26年度 債務負担行為
農業試験場費	単原	庁舎警備業務委託	山陰警備保障(株)	606,000	(H24.2.24) 181,440 (H26.4.1) 62,208	H24.4.1 ~ H27.3.31	H24.2.15 (免除)	H26.4.30 外 H26.5.1 外	精算	H26.5.16 外	62,208	H24~26年度 債務負担行為
農業試験場費	単原	廃液処理業務委託	三光(株)	935円/Kg ほか	(H26.10.20) @35円/Kgほか	H26.10.20 ~ H27.3.31	H26.10.10 (免除)	H26.11.18 外 H26.11.25 外	精算	H26.12.4 外	117,568	
農業試験場費	単原	鳥取県産米水稲玄米の食味官能試験	(財)日本穀物検定協会	567,000	(H26.12.17) 567,000	H26.12.17 ~ H27.3.13	H26.12.9 (免除)	H27.3.2 H27.3.4	精算	H27.3.16	567,000	
農業試験場費	単原	作業環境測定業務	(一般社)鳥取県産業環境協会	628,000	(H26.7.15) 500,040	H26.7.15 ~ H27.3.31	H26.7.11 (免除)	H27.3.16 H27.3.16	精算	H27.3.26	500,040	
農業試験場費	単原	蒸気除草機による除草効果実証試験蒸気処理委託	(株)丸文製作所	266,760	(H26.8.18) 266,760	H26.8.18 ~ H26.9.1	H26.8.1 (免除)	H26.8.28 H26.9.4	精算	H26.9.16	266,760	
農業試験場費	単原	LED緑色灯防除試験調査機材の制作委託業務	(株)フジ電機	529,200	(H26.11.18) 529,200	H26.11.18 ~ H27.2.27	H26.11.12 (免除)	H27.2.27 H27.2.27	精算	H27.3.26	529,200	
農業試験場費	単原	鳥取県産米の炊飯試験業務	(株)アイホー炊飯総合研究所	293,242	(H26.10.20) 293,242	H26.10.20 ~ H26.12.26	H26.10.14 (免除)	H26.10.23 H26.10.27	精算	H26.11.12	293,242	
予定価格が20万円未満のもの											581,124	
目計											3,173,102	
合計											3,173,102	

(単位:円)

14 財産に関する調べ
(1)公有財産
ア 土地

行政・普通財産 の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考		
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日		面積(m ²)	価額(円)
行政財産	農業試験場圃場	鳥取市橋本字原	27,147.58	0	増加	H	6,201		H		27,011.58	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字立	48,552.90	0	減少	H	6,337		H	DBの修正による	48,552.90	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字外	4,986.00	0	増加	H			H		4,986.00	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字井	3,619.00	0	減少	H			H		3,619.00	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字井	6,032.00	0	増加	H			H		6,032.00	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字下	5,855.00	0	減少	H			H		5,855.00	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字上	3,252.82	0	増加	H			H		3,252.82	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字加	19,987.95	0	減少	H			H		19,987.95	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字	119,433.25	0	増加	H			H		119,297.25	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字外	119,433.25	0	減少	H	△ 136.00		H	0.00	119,297.25	0	
計			119,433.25	0						119,297.25	0		
普通財産	なし												
計			0.00	0						0.00	0.00	0	
合計			119,433.25	0						119,297.25	0	0	

イ 建物

行政・普通財産 の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考		
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日		面積(m ²)	価額(円)
行政財産	農業試験場本館	鳥取市橋本	2,423.60		増加	H			H		2,423.60	0	
	付属棟	"	182.00		減少	H			H		182.00	0	
	渡廊下	"	24.00		増加	H			H		24.00	0	
	収納舎	"	495.00		減少	H			H		495.00	0	
	油倉庫	"	7.70		増加	H			H		7.70	0	
	車庫	"	118.67		増加	H			H		118.67	0	
	自転車置場	"	27.36		減少	H			H		27.36	0	
	土壌調査室	"	43.74		増加	H			H		43.74	0	
	土壌殺菌室	"	24.30		減少	H			H		24.30	0	
	計			2,423.60							2,423.60	0	

行政・普通財産 の区分	土地の権利区分	機関名又は施設 名等	所在地	土地の面積等						立木の推定蓄積量		
				前年度末 面積(m ²)	本年度の異動状況		本年度末 面積(m ²)	前年度末 現在高(m)	本年度中 増減高(m)	本年度末 現在高(m)		
					増減別	異動日					面積(m ²)	増減理由
行政財産	県有	農業試験場	鳥取市橋本字 興ヶ谷291-1外	増加	H			3,508.95			0.00	
				減少	H							0.00
				増加	H							0.00
				減少	H							0.00
計						3,508.95	0.00	3,508.95	0.00	0.00		
普通財産	なし			増加	H						0.00	
				減少	H							0.00
				増加	H							0.00
				減少	H							0.00
計						0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
合計						3,508.95	0.00	3,508.95	0.00	0.00		

工 動産 該当なし

オ 物 権 該当なし

カ 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案件等) 該当なし

(ア) 異動状況

(イ) 出願及び登録の状況

(ウ) 活用の状況

キ 有価証券 該当なし

(2)金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成27年5月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		購 入 額	使 用 額		
郵便切手及び郵便はがき	円 32,379	円 129,334	円 126,001	円 35,712	年賀くじ切手受入れ 134円
収入印紙	1,800	0	0	1,800	
収入証紙	0	0	0	0	
タクシークーポン券	0	0	0	0	
鉄道バスプリペイドカード	0	0	0	0	
図書カード	10,000	0	0	10,000	職員が講演した際の主催者からの謝礼
クオカード	2,000	0	0	2,000	職員が外部団体からのアンケートに回答した際の謝礼
合 計	46,179	129,334	126,001	49,512	

イ タクシーチケットの受払状況

該当なし

15 財産の貸付け及び使用許可調べ
 (1) 土地及び建物
 ア 土地

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)の目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏	所名	
行政財産	NTT電話柱設置	鳥取市橋本260	電話柱5本 支線1条	H24.4.1	H14.4.1	H24.4.1~H29.3.31	月額・年額 9,000	9,000	鳥取市湯所町2-258	鳥取支店	
	電力柱設置	鳥取市橋本260	電力柱3本 支線1条	H26.3.5	H16.3.31	H26.4.1~H31.3.31	月額・年額 7,480	7,480	鳥取市商業町117-3	鳥取営業所	
	ソフトバンクモバイル携帯電話基地局	鳥取市橋本260	16.0㎡	H25.3.1	H15.10.24	H25.4.1~H30.3.31	月額・年額 18,700	18,700	東京都港区東新橋1-9-1 ソフトバンクモバイル		
計								35,180			
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								35,180			

イ 建物

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)の目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏	所名	
行政財産	自動販売機設置	鳥取市橋本260	1,28838㎡	H24.4.1	H21.4.1	H24.4.1~H29.3.31	月額・年額 31,920	31,920	東京都江東区亀戸1-42-20 ネオス(株)		
計								31,920			
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								31,920			

(2) 物品

(平成27年 5月31日現在)

品名	数量	規格・銘柄	貸付期間	貸付料(円)		貸付先 住氏名	使用場所	貸付目的	備考
				単価 月額・年額	本年度の貸付料				
自動採水装置	2台	ISCO3700型	H26.7.1 ～ H27.2.25		0	鳥取市湖山町南4丁目101 国立大学法人鳥取大学	江府町御机	下蚊屋ダム濁水対策 調査における水質調 査	農地・水保全課が 研究委託した事業 において使用する するため、無償での 貸付
合計					0				

16 借受不動産明細調べ

該当なし

17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ
(1) 職員住宅
該当なし

(2) 職員駐車場
ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	農業試験場(鳥取市橋本260番地)	12.5	1,000
普通財産	該当なし		

イ 異動状況
(行政財産)

月別	前月末 人	当月減		当月増		当月末		調定額 円	収入済額	収入未済額
		うち減免 人	人	うち減免 人	人	うち減免 人	人			
4月	41	0	0	0	41			41,000		
5月	41	0	2	2	43			43,000		
6月	43	0	0	0	43			43,000		
7月	43	0	0	0	43			43,000		
8月	43	0	0	0	43			43,000		
9月	43	1	0	0	42			42,000		
10月	42	0	0	0	42			42,000		
11月	42	0	0	0	42			42,000		
12月	42	0	1	1	43			43,000		
1月	43	2	1	1	42			42,000		
2月	42	1	0	0	41			41,000		
3月	41	1	0	0	40			40,000		
合計								505,000	505,000	0

18 自動車(二輪を除く)の管理状況調べ

(平成27年 5月31日現在)

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行 キロ数	本年度		備考
					車検年月日	修理費等	
普通貨物 トラック	H22	鳥取100 さ60-65	H22.7.29	5,278 km	H26.9.18	120,764 円	車検
合計		1台		0		0	

19 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

20 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用年数	取得価格 円	不用決定 年月日	不用とす る理由	売却棄却 の別	処分		備考	
								売却方法・棄却理由	処分年月 日		売払額・ 処分費用 円
糶摺機	1	H8.9.30	5	882,710	H26.7.16	更新購入	棄却	修理不能のため	H27.7.24	0	更新機器 購入時に 引取処分
自動計量機	1	S61.3.25	15	120,000	H26.7.16	更新購入	棄却	修理不能のため	H27.7.24	0	
発芽試験機	1	S63.1.21	5	450,000	H26.12.19	修理不能 のため	棄却	修理不能のため	H26.12.19	0	
作物根系調査器具	1	S60.11.26	15	121,000	H27.1.21	修理不能 のため	棄却	修理不能のため	H27.1.21	0	
精米機	1	H9.10.14	5	309,750	H27.1.22	修理不能 のため	棄却	修理不能のため	H27.1.22	0	産業廃棄 物として委 託契約内 での処分
大豆選別機	1	S53.10.17	5	230,000	H27.1.22	修理不能 のため	棄却	修理不能のため	H27.1.22	0	
PHメーター	1	S57.11.11	5	181,800	H27.1.22	修理不能 のため	棄却	修理不能のため	H27.1.22	0	
電気定温乾燥器	1	S55.2.28	6	190,000	H27.1.29	修理不能 のため	棄却	修理不能のため	H27.1.30	0	
合計	8			2,485,260						0	

21 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ
(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

該当なし

(2) 物品の照合

照合年月日	現物確認できなかった物品	現物が確認できなかった物品名	個数
26年12月26日	・ 有 ・ (無)		
～			
年月日			

2.2 事業別予算執行状況調べ

目 名	財産管理費	(平成27年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
県有施設営繕事業	県有施設(農業試験場)8箇所を修繕	

目 名	農業総務費	(平成27年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
先端的農林水産試験研究推進強化事業	H26試験成果及びH27試験設計意見交換会構成員の特別旅費、会議出席にかかる普通旅費	

目 名	農業改良普及費	(平成27年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
普及職員研修費	研修出席にかかる経費(普通旅費及び役務費)	

目 名	農作物対策費	(平成27年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
生産振興推進事業	花壇設置(花苗等購入)に要する経費	
有機・特別栽培農産物等総合支援事業	日本有機農業学会に係る年会費(負担金)	

事業名	事業の概要（目的、実績等）
農薬適正使用推進事業	<p>農薬の適正使用を推進することで、安心・安全な農産物の制裁を支援する。</p> <p>農業試験場では県特産物のうち、ラッキョウなどのマイナー作物（年間出荷量が3万トン以下の作物）で問題となる病害虫防除に必要な農薬の登録を拡大するため、農作物中の残留農薬分析を行った。</p>

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数	燃料		修繕費等	左の主な内容	備考
					消費量	金額			
トラクター	キセキ NT43FFUG CY	H25.6.28	耕地整地、 代かき	67	725.0	10,982			
トラクター	クボタ ZL1-33	S61.5.7	"	25	133.0	19,030	35,176	ベアリング修理、バッテリー 交換のための購入	
トラクター	ヤンマー FX435	H4.5.15	"	49	272.0	38,285	199,325	油圧部・バルブ・ピストン交 換修理	
トラクター	クボタ GL367QBS MAP	H10.4.27	"	44	406.0	65,497	487,642	ボルト・フィルター・レバー スイッチ交換、オイル漏れ修 理、シャトルレバー修理、ラ ンプバルブ交換、エアコン修 理、タイヤ交換	
種子用コンバ イン	ヤンマー CA135PT	H3.9.30	稲刈り	0	0.0				
コンバイン	三菱 MC405DGCL M	H9.9.22	"	11	90.0	13,069			
コンバイン	ヤンマー GC219	H17.6.30	"	8	91.0	13,288	34,312	ハンソウベルト交換のための 購入、カッター部品交換のた めの購入	
コンバイン	ヤンマー AE330, X JU	H23.8.31	"	11	75.0	10,985	12,906	オイルフィルター交換のため の購入	
大豆収穫機	ヤンマー CS21(D)	H6.11.18	大豆刈取	6	40.0	5,772	17,280	バッテリー交換のための購入	
種子用ハーベ スタ	ヤンマー PKD600T	H1.9.5	"	1	1.0	148			
種子用ハーベ スタ	ヤンマー PKD600T	H4.3.10	"	2	2.0	295			
テラー	ヤンマー YTA-6S	H2.6.11	収穫物等運 搬	1	1.0	144			
テラー	ヤンマー YT-400	H4.5.29	"	8	9.0	855	45,316	ワイヤー交換、タイヤ修理、 アクセルワイヤー修理	
テラー	クボタ TD700	H18.5.8	"	21	23.0	3,315			
動力運搬車	CG191SLD-EW	H17.5.2	"	41	46.0	6,605			
動力運搬車	ライガー GX-101	H6.5.23	"	101	57.0	8,223	26,978	走行ベルト交換のための購入	
動力運搬車	築水キャニコムELL80 1KZPW	H9.10.1	"	101	42.0	5,979	34,517	調整及びベルト交換、テン ションプリー交換のための購 入、ファンベルト交換のため の購入	
耕うん機	ヤンマー YS-80	S57.11.30	耕地碎土、 畦立	4	6.0	866			
管理機	ヤンマー ST-512	H1.9.25	除草土寄せ、 畦立	0	0.0				
管理機	IKS AR600 エースローター	H3.7.9	"	0	0.0				
ネギ用管理機	ヤンマー NK7X M3	H11.4.23	"	15	24.0	3,901	24,000	オイル漏れ修理	
管理機	ヤンマー HK80XL	H20.6.16	"	3	7.0	1,144			
乗用管理機	ヤンマー A-10GH	H24.1.18	"	9	43.0	7,086	34,873	ナタ爪交換のための購入	
田植機	イセキ PC-S270	H14.4.30	田植	9	15.0	2,435			
田植機	クボタ SP-2HDSF	H9.5.20	"	0	0.0				
乗用田植機	イセキ PM40D-DC UW	H7.5.8	"	8	18.0	2,910	44,643	ケーブルマーカー修理、ミッ ション部分修理、泥除けカ バー交換	
乗用田植機	イセキ PQ4 さなえ	H15.5.16	"	8	19.0	3,083	49,496	カムリード等交換修理	
乗用田植機	クボタ NSU67-SP 2, SJ-6N	H23.5.23	"	12	44.0	7,223	51,397	タイヤ交換・テンションロー ラー部品交換・ホイールカバ ー用取付金具交換のための購入	
バインダー	BE-50A	H17.7.29	稲、麦刈	6	7.0	1,146			
バインダー	ヤンマー YB65	H1.9.18	"	4	4.0	652			
バインダー	ヤンマー YB-50	H4.2.25	"	1	1.0	167			
不耕起播種機	みのる PFT-6-1	H8.10.1	乾田直播用 播種	0	0.0				
フォークリフ ト	小松 FG09-2	H9.10.16	収穫物等運 搬	112	121.0	19,449	70,000	年次点検及び部品交換	
歩行型マル チャー	ヤンマー PRT851 F-RB40ABD	H9.7.15	耕うん、畝 立、マルチ	0	0.0				
シリンダカッ ター	CX-201S	H17.9.30	薬用カッ ター	10	5.0	722			
大豆脱粒機	PBT610	H16.3.23	大豆脱穀機	4	3.0	473			
合計				702	2,330	253,729	1,167,861		

2.4 生産物（品）に関する調べ

(平成27年5月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積	生産計画数量	生産数量			場内使用	処分数量						分類換	差引残	備考		
				前年度からの繰越	生産購入	計		売却		目的外使用		廃棄	計					
								数量	金額	数量	金額		数量				金額	
		a	kg	kg	kg	kg	kg	kg	円	kg	円	kg	kg	円		kg		
水稲	原種	189	4800	5372.2	5585.0	10957.2	128.6	3619.0	1,617,196	2.2						7092.1		
									1,456,245									H25出荷
玄米	一般	353	13000	0	21586	21586	240	21346	1,876,358							0		
									370,689									H24出荷
									326,054									H25出荷
麦類	原種	19.0	300	189.7	817.7	1007.4	2.0	450.0	118,034							555.4		
大豆	原種	156.0	1400	3462.9	1648.0	5110.9	66.0	1300.0	670,162	0.6						3744.3		
	一般	52	1300	0	2772	2772	0	2772	48,913							0		
									69,289								H25出荷	
小計									6,552,940									
野菜	白ネギ	8	3000	0	2354	2354	0	2354	235,400							0		
	ブロッコリー	12	400	0	891	891	0	891	44,550							0		
	アスパラガス	3.5	50	0	662	662	0	701	70,100							0		
小計									350,050									
合計									6,902,990									

1

事業名	水稻新品種育成試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S43年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,654,900円) 1,617,110円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 県の顔となるような水稻新品種の育成	場内 智頭町 倉吉市	初期世代 40a 生産力検 定 26a 現地試験 10a	鳥取県における水稻の各栽培地帯及び栽培体系に適應する優良品種を育成する。	(成果) 104組の交配、104組のF1個体養成、34組の世代促進、集団養成・選抜、748系統の系統養成・選抜、91系統の生産力検定を行った。 (課題) 気候温暖化や耐病性に対応しうる品種の育成。

事業名	奨励品種等選定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,762,000円) 1,681,388円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 10ヶ所	40a 53系統 各10a 極早生粳 2ヶ所各1系統 早生粳 4ヶ所各2系統 中生粳 4ヶ所各1系統	本県で普及奨励する水稲の優良品種を選定するため鳥取農試、独立行政法人、公立試(福井県農業試験場ほか6機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 有望な4系統を本調査へ、19系統を継続とし、24系統を打ち切りとした。 (2)本調査 3系統を継続とし、2系統を打ちきりとした。 (3)現地調査 本調査と同様の4系統を極早生から中生まで供試し、調査結果を上記の判定に活用した。 (課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
2.麦類 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 1ヶ所	10a 二条大麦 4系統 六条大麦 1系統 5a 二条大麦 1系統	本県で普及奨励する麦類の優良品種を選定するため、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 二条大麦は1系統を有望、3系統を継続とし、六条大麦は1系統を打ち切りとした。 (2)本調査 二条大麦の1系統を打ち切りとした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定に活用した。 (課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
3.大豆 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査を行い供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 5ヶ所	15a 12系統 各10a 早生 2ヶ所各1系統 中生 3ヶ所各2系統	本県で普及奨励する大豆の優良品種を選定するため、鳥取農試、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)、公立試(長野県農業試験場)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 1系統を有望、4系統を継続とし、4系統を打ち切りとした。 (2)本調査 1系統を継続、2系統を打ち切りとした。 (3)現地調査 本調査と同様の2系統を供試し、調査結果を上記の判定活用した。 (課題) 新規系統を含め、本県において栽培に適した優良品種を選定

3

事業名	新品種栽培マニュアル策定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H4年度(水稻・大豆)、H15年度(麦類) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,437,000円) 1,388,443円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単) 奨励品種への採用が見込まれる水稻・大豆・麦類品種・系統について、円滑な普及と導入農家における生産安定を図るため、特性を活かした栽培法を確立する。 また、奨励品種採用後に明らかになった栽培上の問題点についても技術対策を策定する。</p>	場内	20a 1品種	<p>水稻 高温登熟に優れる「鳥系93号」や「あきさかり」の穂肥時期や穂肥量の違いによる生育、収量、品質等への影響を明らかにする。</p>	<p>(成果) 水稻 「鳥系93号」、「あきさかり」とも「コシヒカリ」よりも高い収量性が認められ、穂肥は幼穂長1mm時と4mm時の相違はなく、窒素量2kg/10aが妥当と判断された。両品種とも「コシヒカリ」よりも収穫適期幅が長く、品質が良質である傾向が見られた。</p>
	場内	3a 1品種	<p>大麦 「しゅんれい」の精麦蛋白質含量を適正範囲に安定させ追肥時期を検討する。 また、防除時期を計画するための出穂期予測法を検討する。</p>	<p>大麦 「しゅんれい」の穂肥基準として1回目を幼穂2～4mm時、2回目をその10～20日後とすることで品質が向上する傾向が得られた。 実用的な出穂期予測が可能で、データ蓄積により精度が向上した。予測情報は現地に情報提供し、活用された。</p> <p>(課題) 水稻 高温登熟性にすぐれた品種・系統等の栽培特性の検討 大豆 奨励品種採用を目指す早生2系統の栽培特性の把握</p>
<p>水稻主要品種における生育データの集積・解析と情報提供</p>	場内 県内現地 15カ所	場内7a 坪刈2～3 地点/箇所	<p>「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「きぬむすめ」の生育データの集積するとともに、それらの生育情報について随時現地に提供を行う。</p>	<p>(成果) 生育推移や収量等のデータを集積した。生育状況及び幼穂形成期等の予想日について「稲作技術情報」やHP等を通じて関係機関に情報提供した。</p> <p>(課題) データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信</p>

4

事業名	主要農作物原採種事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稲)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(3,126,440円) 2,806,728円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲の原原種の採種	場内	9.9a	水稲原原種の選抜、維持。	(成果) 「日本晴」28系統、「きぬむすめ」25系統、「とりの泉」24系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
2.水稲原種の採種	場内	211a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「コガネヒカリ」、「ひとめぼれ」、「コンヒカリ」、「日本晴」、「きぬむすめ」、「とりの泉」、「鈴原糯」について採種を行った。 (課題) 特になし。
3.大豆の原原種の採種	場内	10.6a	大豆原原種の選抜、採種。	(成果) 「鳥取大山2001」24系統、「緑だんだん」24系統、「三朝神倉」24系統、「タマホマレ」34系統、「サチユタカ」27系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
4.大豆原種の採種	場内・現地	128a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「サチユタカ」、「タマホマレ」、「緑だんだん」、「鳥取大山2001」、「三朝神倉」について採種を行った。 (課題) 特になし。
5.麦の原原種の採種	場内	3.7a	大麦原原種の選抜、採種。	(成果) 「しゅんれい」33系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
6. 麦原種の採種	場内	37a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「しゅんれい」について採種を行った。 (課題) 特になし。

25 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成27年5月31日現在)

5

事業名	「ゆうきの玉手箱（弐の重）」技術確立☆チャレンジ編		担当室別	有機・特別栽培研究室、作物研究室、環境研究室	
実施計画期間	H25年度 ～H29年度		(予算額) 支出済額	(2,660,000円) 2,346,429円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
(単) 1. 水稲有機栽培における適性の高い品種の探索、育苗技術の確立、除草方法並びに病害虫の抑制技術の検討	場内 大山町 鳥取市 日南町 倉吉市	場内 3ほ場 現地 4ほ場	6 主な事業に関する調べに記載		
(単) 2. 大豆有機栽培における高付加価値品種の栽培法確立並びに病害虫対策の検討	場内	場内 3ほ場			
(単) 3. 有機栽培下での輪作による雑草抑制、病害回避、地力回復等の効果検討	場内	場内 1ほ場			
(単) 4. 転換畑における有機栽培に適した新品目の探索	場内	場内 1ほ場			

6

事業名	有機栽培「トレジャー技術」を協働で 発掘・解析・検証拡大する事業		担当室別	有機・特別栽培研究室
実施計画期間	H26年度 ～		(予算額) 支出済額	(2,053,000円) 1,888,408円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 有機栽培現 地実践ほ場の 調査・検証 (概要調査) 1) 水稲作	鳥取市 八頭町	有機栽培 水稲ほ場 3グループ 6ほ場	除草作業の省力・軽労化を 図りつつ、収量確保をねらう 実践事例を対象に、水稲3 事例の実態を調査。 生育収量等のデータ蓄積と 解析、問題点の抽出、技術 的なサポート等を行う。	(成果) 独自の除草機を開発し実践している事例等3事 例を調査した。雑草量と玄米収量との間には負 の相関関係が認められたが、ほ場条件に応じた 除草機の適切な使用方法等を明らかにすること で、収量の底上げと安定化が見込めるものと考 えられた。 (課題) ほ場条件に応じた除草機の適切な使用方法等 を明らかにし、除草効果の安定化を図る。
(単) 2) 畑作(大豆、 らっきょう)	大山町 南部町 鳥取市 北栄町	有機栽培 大豆ほ場 2グループ 4ほ場 らっきょうほ場 2グループ 2ほ場	新規に有機栽培の取組みを 始めた農業者を対象に、畑 作物4事例(大豆・ラッキョ ウ)の実態を調査。 生育収量等のデータ蓄積と 解析、問題点の抽出、技術 的なサポート等を行う。	(成果) 大豆栽培の事例では、中耕培土の適期を逸し たことが、雑草の多発につながっているものと 推察された。また、らっきょうでは動物性の有機 液肥利用による追肥効果を検討し、施用により 肥大効果は認められたが、増収効果は認めら れなかった。 (課題) データ蓄積を図るため、次事業でも引き続き試 験を実施する。大豆では中耕培土の適期作業 の実証、らっきょうでは最適な施肥時期の検討お よび除草対策試験を行う。
(単) 2. 先進的な水 稲有機栽培技 術の科学的解 明 (詳細調査)	鳥取市	有機栽培 水稲ほ場 1グループ 10ほ場	前事業の3カ年の現地調査 で抽出された優良農家(1事 例)を対象として、来歴の異 なる10ほ場で調査を行い、 雑草対策技術のメカニズム 並びに環境要因(土壌条件 等)が生育収量に与える影 響を解析する。	(成果) 対象ほ場及び他の現地ほ場、場内圃場につい て栽培期間中の土壌表面に、抑草に有効とされ る土壌表面に膨軟な層の発生が散見された。こ れらの圃場では膨軟層発生に関与するとされる イトミズノ生息が確認できた。 (課題) 再現試験では膨軟部の発生は認められず、引 き続き条件を検討し実験で再現・解析する。
(単) 3. 水稲の有機 栽培体系化技 術の実証展示	場内 琴浦町	12a 45a	農業試験場が確立・体系化 した技術等をモデル的に東 部(場内)、中部(琴浦町) ほ場で実証展示するととも に、現地での適応性を確認 する。	(成果) 新規に選定した雑草発生量が甚大な現地ほ場 において、機械除草と「大豆粕配合米ぬかペレ ット」併用処理は、除草効果は高く、収量性も向 上し、実用性が高いことを実証できた。 (課題) 大豆粕配合米ぬかペレットを連用する場内ほ場 では倒伏程度が進む傾向が見られたため、適 正施肥量を検討する必要がある。
(単) 4. 「鳥取県有 機農業推進ネ ットワーク」 との連携	室内		当団体で有機農業者相互の 情報交換・研鑽が円滑に進 むよう支援する。	(成果) 昨年度3月に正式発足した「鳥取県有機農業 推進ネットワーク」の第1回研修会を11月に 開催し、これに対しての支援を行ってきてい る。

7

事業名	水稻・麦・大豆の病害虫防除技術の確立	担当室別	環境研究室	
実施計画期間	H23年度 ～ H26年度		(予算額) 支出済額	(1,776,000円) 1,666,244円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単・委) 鳥取県の水稻・麦・大豆栽培において被害につながる病害虫を対象に、本県に最も適した効率的防除法および省力防除法を確立し、 (1) 安定生産および高品質化、(2) 防除の省力・低コスト化、 (3) 人と環境にやさしい農業の推進を図る。	場内 鳥取市 八頭町 琴浦町	30a 20a 20a 20a	6 主な事業に関する調べに記載	(成果) 6 主な事業に関する調べに記載
				(課題) 6 主な事業に関する調べに記載

8

事業名	新農薬の適用に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S46年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(470,000円) 470,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 本県の普通作物病害虫に適した新規の防除薬剤の選択および登録促進を目的として、日本植物防疫協会から受託し、効果を確認するとともに、本県の防除対策に資する。	場内 八頭町 (2か所)	25a 40a	殺菌剤およびその混合剤4剤、殺虫剤およびその混合剤13剤、計17剤の防除効果を検討する。	(成果) 新規薬剤の防除効果は、判定基準A(実用性が高い)7剤、B(実用性がある)8剤、C(効果は低い実用性あり)2剤、D(実用性低い)は該当なしであった。 (課題) なし

9

事業名	水稲大豆等新除草剤適用性試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(680,000円) 680,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 1.水稲新除草剤試験	場内	25a	水稲用新除草剤の本県への適応性検討。	(成果) 8剤について実用可能と判定した。 (課題) 難防除雑草に有効な新除草剤の探索。
2.効果の高い除草剤使用方法の確立	場内	5a	水稲雑草に対する抑草効果期間が長い新規成分を含む除草剤の実用性を検討する。	(成果) 2剤について実用性があると判断した。 (課題) 難防除雑草の種類別防除方法技術の検討

10

事業名	気候温暖化に対応した水稲・大豆基幹 品種の品質等向上試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ~ H26年度		(予算額) 支出済額	(1,080,000円) 991,587円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調 査 の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調 査 等 の 目 標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲主要品 種である「コシ ヒカリ」の品質 向上に向けた 栽培技術を確 立する。	場 内	11a	6 主な事業に関する調 べに記載	(成果) 6 主な事業に関する調べに記載
	県内現地 1ヶ所	10a		(課題) 6 主な事業に関する調べに記載
2.大豆主要品 種ある「サチユ タカ」の収量安 定技術を確立 する。	場 内	7a	6 主な事業に関する調 べに記載	(成果) 6 主な事業に関する調べに記載
	県内現地 3ヶ所	50a		(課題) 6 主な事業に関する調べに記載

事業名	水田転作野菜の安定栽培技術の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H23年度 ～ H27年度		(予算額) 支出済額	(1,709,000円) 1,546,896円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水田転換畑における白ネギ適品種の選定及びかん水効果の検討	場内	7a	水田転換畑での有望品種の選定 条間短縮の検討 土寄せ作業改善による秋冬ネギの収穫安定	(成果) 比較的排水の良い状態であれば、普通畑で有望な品種は収量・品質とも優れる。 土寄せ時にモミガラを施用することで白ネギ株元への培土が増加し、作土層の浅いほ場における条間短縮の可能性が示唆された。 土寄せ時にモミガラを施用することで降雨後の通路の乾燥を促し、作業に入りやすくなる。 (課題) ほ場排水性の向上による作期幅の拡大
2.アスパラガスの生産安定と新植栽様式の検討	場内	3a	定植方法の違いによる収量の検討	(成果) 簡易溝区、堆肥盛り区ともに慣行区と同程度の秀品収量を収穫初年度から3年間継続して得られており、いずれも簡易な栽植様式として有望と考えられる。 (課題) 慣行に比べ、より簡易で省力的に定植方法の確立
3.新規品目の検討	場内	4a	黒大豆エダマメの摘心栽培の検討	(成果) 苗を摘心することで徒長を防ぎ移植適期を長くすることができると考えられた。ただし、増収効果は認められなかった。 (課題) 未検討の新規品目の検討
4.小型機械・器具による簡易排水技術体系の開発	場内及び場外		小型管理機等による明渠の施工、再施工後の形状変化	(成果) 明渠施工にトラクタ装着型の明渠掘機、再施工に小型管理機を利用することにより、施工後の崩落を軽減することが可能と思われた (課題) ネギ移植を容易にする簡易作溝の検討
5.小型機械・器具による簡易排水技術体系の開発	場内	20a	早春のトラクタ作業を可能とする作業技術の検討	(成果) サブソイラーの施工を野菜栽培前年秋に実施することによって、高い排水性が維持できると考えられた。 (課題) 局所排水技術のマニュアル化

12

事業名	耕作放棄地解消に向けた復田化及び畦畔管理技術の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ～ H26年度		(予算額) 支出済額	(939,000円) 882,078円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 復田化技術	場内 県内現地 4ヶ所	県内現地 4ヶ所	クズの体系的防除(単年)後の翌年の復田の可否の検討 農業機械を用いた灌木処理の検討	(成果) フレールモアとラウンドアップの秋期処理を中心とした処理によりクズを効果的に防除できることが認められた。 農業機械のフロントローダーを用いて高さ4m程度までの灌木を抜根する技術を開発した。 (課題) 水田を合筆するときの畦畔の簡便な撤去方法の検討
2. 畦畔の芝への簡易な植生転換手法	場内 県内現地 3ヶ所	県内現地 ほ場等の 畦畔	冬芝の経年持続性(播種後2年目) 冬芝播種前の除草剤散布時期と越冬草発生量 新規造成法面へのセンチピードグラスの播種方法	(成果) 冬芝のハードフェスクは播種後2年目の繁茂状況を確認した。 除草剤散布および冬芝播種を10月とすることで、出芽した越冬草を枯殺できる。 センチピードグラスの畦畔での養生において、パーク堆肥を播種後被覆または播種時混和することで播種後の降雨流失を防ぎ、液肥施用により被覆速度を高められる。 (課題) 平坦部における冬芝の夏越しの検討

13

事業名	安定した収量と食味向上のための水稲 省力施肥技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H23年度 ～ H26年度		(予算額) 支出済額	(1,577,000円) 1,497,886円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 水稲の収量と 食味、品質の 向上を目指し た肥培管理技 術の検討を行 う。	きぬむすめ 場内 倉吉 岩美 琴浦 大山 コシヒカリ 場内 八頭	22a 33a 10a 10a 10a 10a 15a×3	鳥取県産米の評価アップ と生産者の所得向上のた め、収量と食味、品質向上 を目指し基肥一発肥料を重 点とした施肥技術の再構築 を行う。	(成果) きぬむすめに適した基肥一発肥料の窒素溶 出タイプを提案することができた。 農業気象データを活用した生育予測技術に ついて現地検証を行い、精度よく生育予測で きることが確認できた。 (課題) なし

14

事業名	水田転換畑における自給飼料の安定生 産技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H26年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(3,787,000円) 3,651,894円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 水田転換畑に おける飼料用 作の施肥改善 および排水対 策等について 検討し、安定 生産技術の確 立を図る。	場内 鳥取	8a 10a	高品質な発酵粗飼料用ダ イズを得るための栽培技術 の確立を図る。また、飼料 用トウモロコシの高位安定 化を図るため、効率的な施 肥の検討を行う。	(成果) 飼料用ダイズの刈取り適期別収量および粗 蛋白質含有率を明らかにした。また、イタリ アンライグラスの実用的な抑草効果を明らか にした。 (課題) なし

15

事業名	土壤保全対策技術確立事業		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S54年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,094,000円) 924,479円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) ＜土壤管理実態調査＞ 地球温暖化防止と土壤肥沃度の変化を把握するため、農地に蓄積している炭素・窒素の量とその変化についての調査を行う。	県内10ヶ所の水田、畑、果樹園、草地 (場内4、北栄、琴浦2、淀江、大山、伯耆)	土壤理化学性調査、断面調査、 (18項目)、アンケート調査	適切な土壤管理法の確立にむけた土壤中の炭素、窒素量とその変動を把握する。	(成果) 計画通り調査を実施。 地目別では樹園地及び草地、土壤別では黒ボク土で炭素貯留量及び窒素貯留量が高い傾向があることを確認した。 (課題) なし
(単) ＜土壤機能モニタリング調査＞ 県内耕地土壌の実態調査を行い、土壤管理や土壤改良のための基礎資料とする。	県内8ヶ所の水田、畑 (岩美、鳥取6、智頭)	土壤理化学性調査、断面調査、 (36項目)、アンケート調査	本年度の調査の実施と過去データの整理を行う。	(成果) 計画通り調査を実施。 (課題) なし

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等

なし

(2) 監査委員事務局に対する要望等

なし